適用病害と使用方法

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	オキシテトラサイクリンを含む農薬の総使用回数	ストレプトマイシンを含む農薬の総使用回数
りんご	枝枯細菌病	2000倍	200～700ℓ/10a	収穫60日前まで	3回以内	散布	3回以内	3回以内
なし				収穫75日前まで				
もも	せん孔細菌病	1500倍		収穫60日前まで	2回以内		5回以内	2回以内
うめ	かいよう病	1000倍		収穫90日前まで			4回以内	
すもも	黒斑病	1500倍		収穫30日前まで			3回以内	
キウイフルーツ	花腐細菌病 かいよう病	1000倍		落花期まで	3回以内			4回以内 （樹幹注入は1回以内）
ばれいしょ	疫病		100～300ℓ/10a	収穫3日前まで	5回以内		5回以内 （種いもへの処理は1回以内）	5回以内 （種いもへの処理は1回以内）
	軟腐病	1000～1600倍						
	黒あし病 そうか病	40～100倍	―	植付前	1回	5～10秒間種いも浸漬		
			種いも100kg当り2.5～3ℓ			種いも散布		
キャベツ	黒腐病 黒斑細菌病	2000倍	100～300ℓ/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内	2回以内
はくさい	軟腐病 黒斑細菌病	1500～3000倍			3回以内		4回以内	3回以内
レタス	腐敗病	2000倍			2回以内		2回以内	2回以内
たまねぎ	軟腐病	1000倍		収穫7日前まで	5回以内		5回以内	5回以内
にんにく	春腐病				3回以内		3回以内	3回以内
こんにゃく	葉枯病 腐敗病			収穫30日前まで	6回以内		6回以内 （種いも浸漬は1回以内）	6回以内 （種いもへの処理は1回以内）
	腐敗病	250～500倍	―	植付前	―	1時間種いも浸漬		
ほおずき	斑点細菌病	1000倍	100～300ℓ/10a	発病初期	3回以内	散布	3回以内	4回以内
シクラメン	葉腐細菌病			葉組み時	8回以内 （但し土壌灌注は4回以内）		8回以内	8回以内
			200～300㎖/鉢	鉢上げ時 または鉢替え時		土壌灌注		
たばこ	野火病 角斑病	1500倍	100～180ℓ/10a	収穫3日前まで	2回以内	散布	2回以内	―
	吊り腐れ （空胴病菌による） 空胴病	1000～1500倍						
	疫病	1000倍						
桑	縮葉細菌病	500倍	200～700ℓ/10a	―	3回以内		3回以内	
西洋芝（ベントグラス）（生産圃場）	かさ枯病		0.5ℓ/m²	発病前～発病初期	8回以内		8回以内	

⚠ 効果・薬害等の注意事項

●石灰硫黄合剤との混用はさけ、また、ボルドー液と混用する場合は、使用直前に混合してください。
●本剤の使用により、薬害としてクロロシス（黄化現象）を生じることがあります。特に高温多湿時には薬害を生じやすいので、留意の上散布してください。
●はくさいにおいては、高温時又は幼苗期には薬害の影響が大きいので、この時期の使用はさけてください。
●ばれいしょの種いも消毒に使用する場合は下記の事項に注意してください。
①萌芽後や種いも切断後の処理は薬害を生じるのでさけ、必ず萌芽前に種いもを切断せずに処理してください。特に植付後の地温の上昇が遅れた場合には、萌芽や生育遅延が助長されるので春先の気温の低い地域では注意してください。
②浸漬処理の場合、浸漬時間が長くなったり、高濃度液に浸漬すると薬害を生じやすいので所定の浸漬時間及び希釈倍数を厳守してください。
③散布の場合は、種いもを床等に十分に拡げ、種いも100kg当り2.5～3.0ℓの割合で種いも全体が均一にぬれるようにていねいに散布してください。
④薬剤処理した種いもは長時間ぬれたままにしておくと発芽遅延等の薬害を生じるので、風通しのよい場所ですみやかに乾燥させてください。
⑤種いもを切断する場合は処理した薬液が十分乾いてから行なってください。
⑥薬剤処理した種いもは、食料又は飼料には使用しないでください。
●なし及びりんごに対しては、重複散布や多量散布は薬害を生じる場合があるので、所定の希釈倍数を厳守してください。
●たばこの角斑病に対しては、発生初期に時期を失しないように散布してください。
●シクラメンの葉腐細菌病に対する土壌灌注の使用液量は、直径15～20cmの鉢が基準であり、植木鉢の大きさにより適宜増減してください。
●本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをお勧めします。

⚠安全使用上の注意

●本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
●使用の際は防護マスク、不浸透性手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用してください。作業後は直ちに身体を洗い流し、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換してください。
●作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
●かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさけてください。
●夏期高温時の使用をさけてください。
●使用の際は使用に関係のない者が作業現場に近づかないよう配慮してください。
●かぶれ等を生じた場合には医師の手当を受けてください。

■水産動植物に対する注意

使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

■保管

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管してください。

2023年4月現在の登録内容に基づいています。

●使用前にはラベルをよく読んでください。 ●ラベルの記載以外には使用しないでください。 ●小児の手の届く所には置かないでください。

製造 日本曹達株式会社
〒100-8165 東京都千代田区大手町２丁目２番１号

販売 MBC 丸和バイオケミカル株式会社
■本　社／〒101-0041 東京都千代田区神田須田町2-5-2 TEL 03-5296-2314
■札　幌／TEL 011-222-1285 ■仙　台／TEL 022-261-1103
■名古屋／TEL 052-951-7234 ■大　阪／TEL 06-6484-6850
■福　岡／TEL 092-714-7101
https://www.mbc-g.co.jp
お問い合わせ窓口／TEL 03-5962-9731（9時～17時 土日祝を除く）

農林水産省登録
第３３１６号

技術資料

2種の有効成分を配合。
幅広い病害に有効で耐性菌がでにくい。
永年の実績と信頼のブランド。

殺菌剤

アグリマイシン®-100

®は日本曹達（株）の登録商標です。

日本曹達株式会社

アグリマイシン®-100 4つの特長

1 耐性がつきにくい！

細菌に対して高い抗菌活性をもつ2種類の抗生物質オキシテトラサイクリン、ストレプトマイシンを効果的に配合した複合製剤です。これらの有効成分はともに細菌に対する作用点が異なるため、耐性がつきにくい製剤となっています。

2 抗菌範囲が広い！

それぞれ抗菌範囲が異なる2種類の有効成分を配合しているため、単剤よりも抗菌範囲が広い製剤となっています。

3 信頼のブランド！

1957年の上市以来、半世紀以上にわたって、多くの皆様に愛用されています。そのため、適用病害も多く、優れた効果が認められています。

4 定評の優れた抗菌力！

有効成分オキシテトラサイクリン（テラマイシン®）は、ファイザー社が人体用として開発した抗生物質です。現在でもさまざまな分野で利用されており、その優れた抗菌力は広く認知されております。

成分・性状・安全性

殺菌剤分類 41, 25

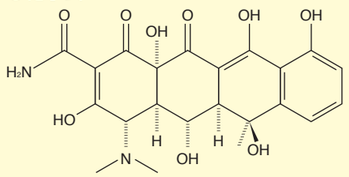
●一般名：オキシテトラサイクリン・ストレプトマイシン水和剤
●物理的化学的性状：淡黄褐色水和性粉末
●有効成分：
アルキルトリメチルアンモニウムカルシウムオキシテトラサイクリン …… 2.8%
（オキシテトラサイクリンとして…… 1.5%）
ストレプトマイシン硫酸塩 …… 18.8%
（ストレプトマイシンとして…… 15.0%）
界面活性剤、安定剤、鉱物質微紛 等 …… 78.4%
●人畜毒性：普通物（毒劇物に該当しないものを指していう通称）

有効成分オキシテトラサイクリン（OTC）とは

1.放線菌*Streptomyces griseus*から産出された天然の抗菌性物質です。

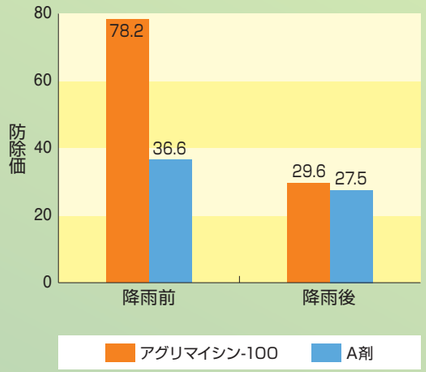
2.細菌のタンパク質合成を阻害することで、高い抗菌活性を示します。

●化学式



効果的な散布タイミング

降雨前散布が降雨後散布より有効です。

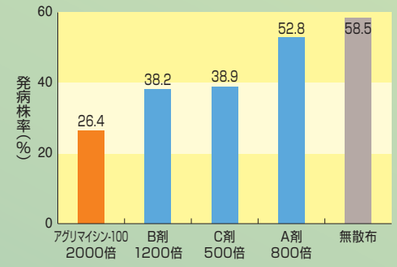


【試験概要】
場　　所：青森県産業技術センター野菜研究所
作物名（品種）：ニンニク（福地ホワイト：黒石A）
面　積・区　制：1区6m²・3区制
植え付け日：2009年 10月16日
収　　穫　日：2010年 7月5日
散布日（降雨前散布区）：2010年 4/27、5/19
散布日（降雨後散布区）：2010年 4/30、5/15
散 布 方 法：降雨前後に、なか1～2日おいたものを、それぞれ降雨前散布、降雨後散布、とした。なお、薬剤は十分量を散布した。
病原菌接種日：2010年 4/28、5/20
供 試 菌 株：2010年 4/12　同研究所内で発生した軟化腐敗株より分離された、にんにく春腐病菌（*Pseudomonas marginalis* および *Erwinia carotovora*）をLB培地で増殖させたものを使用し、cfu.約1×10⁸濃度に調整した懸濁液を噴霧接種した。
調 査 方 法：40株について発病株を調査し、発病株率を算出した。
考　　察：降雨前散布が降雨後散布に比べ、より効果が高いことが分かった。
2種の抗菌剤のうち、アグリマイシン-100 の効果がより高いことが分かった。

効果試験成績

レタス 腐敗病に対する防除効果

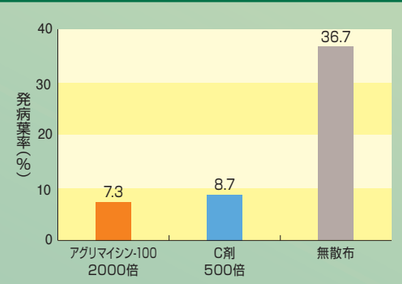
1995年 青森県農業試験場



【試験概要】
発生状況：多発生（接種）
品　　種：マイレタス
区　　制：1区8m² 3連制
散 布 日：6/27、7/4、7/11、7/17（計4回）
調 査 日：7/20

キャベツ 黒腐病に対する防除効果

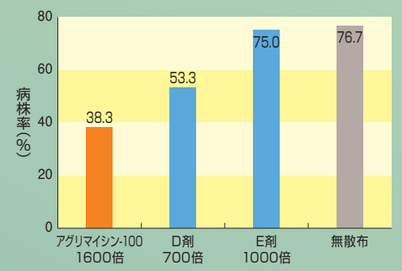
1997年 長野県野菜花き試験場



【試験概要】
発生状況：少発生（接種）
品　　種：若峰
区　　制：1区3.6m² 20株/区 2連制
散 布 日：9/8、9/19、9/30（計3回）
※9/19 散布直前に病原菌接種
調 査 日：10/17

ばれいしょ 軟腐病に対する防除効果

1981年 北海道立十勝農業試験場



【試験概要】
発生状況：甚発生（病株率65.0%）
品　　種：男爵
区　　制：1区18m² 乱塊法 3連制
散 布 日：7/15、7/22、7/29、8/7（計4回）
調 査 日：8/17